

小松同窓会 記念館特別展 オクヤナオミ展

(奥谷直巳／中学44回卒)

「輝く気体の結晶微塵－その3」



記念館委員会では、本年度の 小松同窓会記念館 特別展 として、「オクヤナオミ」展 (奥谷直巳／中学44回卒) を開催します。

奥谷氏は、疎開中の宮本三郎との美川海岸での出会いをきっかけに、金沢美術工芸専門学校(現・金沢美術工芸大学) 油画科の第一期生として入学しました。昭和25年に卒業後、昭和40年に渡欧し、パリに在住しながら制作活動を展開。フランスを中心にヨーロッパ各国の国際美術展や版画展などで作品を発表され、高い評価を受けられました。

昭和57年までの渡欧生活の後、帰国後は、東京を拠点として活動し、故郷の石川では、小松市立本陣記念美術館「12月ふたり展」(平成11年)、小松市立本陣記念美術館「現代美術の行方」(平成17年)、小松市立宮本三郎美術館「宮本三郎とオクヤナオミ」(平成24～25年)の展覧会を開催されました。

著書には、『対角線上の異邦人』(水星社／平成15年)、『余白は芸術に関係がないーが、ひとつのフォルムである。』(水声社／平成20年)があります。

本展は、記念館特別収蔵庫と校舎ギャラリーを会場に、令和2年に逝去された奥谷氏の追悼展として、「化石を含む明晰」(芸術家たちへのオマージュ作品集・12点)などの版画作品、アクリル画・油彩画を展観します。また、金沢美術工芸専門学校の同期生である鴨居玲氏が、パリ在住時(昭和41年)に、奥谷夫妻を描いた肖像画(スケッチ・2点)も展示します。

在校生たちは、鋭敏な理性と知性、そして、感性を働かせ、オクヤ作品に秘められた「数学」と「言語」を読み取り、「色」と「形」のハーモニーを心豊かに感じ取ってくれることと思います。同窓生の皆様には、お誘いあわせのうえ、是非 ご来校いただき、記念館特別展「オクヤナオミ」展をご高覧 くださいますようご案内を申し上げます。